

平成29年9月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

◎ 代表質問

いばら月曜会

11番 坊野 公治

1. ジャパンエキスポについて

- ①参加の経緯について伺う。
- ②会場での様子と感想、感触について伺う。
- ③井原市へのインバウンドの可能性はどうか伺う。

2. 井原デニムについて

- ①リニューアルオープン後の井原デニムストアの売り上げ、集客状況について伺う。
- ②本年3月20日に、市長は「ふるさと名物応援宣言」をされたが、「井原デニム」のブランド力を高めるため、今後どのような支援を行っていくのか伺う。

3. 井原市が行う各種イベントの見直しについて

現在井原市では、各課において多くのイベントが行われている。人口減少が進む中、イベントによっては参加人数の減少により、予算規模の縮小も考えなければならない事業もあると考えられる。

- ①事業を集約して効率化を図ってはどうか伺う。
- ②各課で行っている事業を取りまとめ、縦割りではなく全市的に計画する部署を作ってはどうか伺う。

4. 第7次総合計画について

第7次総合計画は、井原市の平成30年度から10年間の指針となる重要な計画であり、現在、策定が進められている。この計画には、市長の井原市の今後10年間に対する思いが組み込まれていると考えるが、市長の思いを伺う。

◎ 個人質問

19番 佐藤 豊

1. 高梁川流域圏連携成長戦略ビジョンについて

今年3月に、高梁川流域圏成長戦略ビジョンの2回目の改訂がなされ、関係市町では60を超える各事業の取り組みを進めています。また、本市においても、井原市の将来像を展望しながら本市に係る事業について各課で取り組みがなされていると思います。

成長戦略ビジョンの60を超える事業内容を見ると、圏域の活性化事業や産業振興、人材育成、安心安全なまちづくりなど、圏域内での協力と各市町の特性を生かした事業展開が多くありますが、1番の骨子は、自然動態、社会動態による急激な人口減少を抑制し、圏域の市町の継続的な連携による自治体の存続と活力あるまちづくりにあると考えます。

そこで、以下の事業の進捗状況について伺います。

①戦略ビジョンの中での結婚相談運営事業と高梁川流域圏婚活推進事業への現状の取り組み状況と周知活動について。

②繊維産業「産地連携」推進事業に対する取り組み状況について。

③高梁川流域パスポート事業の推進状況について。

2. 東京オリンピック・パラリンピック用メダル制作に伴う金属の収集、啓発について

東京オリンピック・パラリンピック競技大会で3位までに入った選手に授与

する金、銀、銅のメダルについて、大会組織委員会は都市鉱山に眠っている金属で制作すると発表し、今後、全国の自治体や協力団体への依頼を積極的に行っていくとのことでありました。その後の連絡の有無とその対応、そして継続的な収集運動への対策について伺います。

3. 高齢者家庭の布団廃棄処分の支援について

急激な高齢化の進展で、70歳を超える高齢者も市内で1万人を超えた状況にあり、また、基礎年金暮らし等の経済的に苦しい一人暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯、自動車等の移動手段を持たない人が増えている現状にあります。そうした中で、古くなり利用しない布団を処分したいが、高月のクリーンセンターまで自ら持ち込めない方や、また、シルバー人材センターを活用しても大きな負担を感じる高齢者の方がおられます。そうした高齢者から年1回でもいいから、市において無料での不要布団の回収及び廃棄処分をしていただけないかとの声を複数の人から聞くところです。こうした課題は高齢化が進展していく過程において発生する様々な課題の一つと考えますが、本市としてのこうした現状を踏まえ、今後、どのような対応が考えられるか伺います。

2番 多賀信祥

1. 自主防災組織について

①本市が考える自主防災組織の重要性について伺います。

②全国的に自主防災組織の結成率と実態の乖離が問題となっていますが、その点についての本市の実態を伺います。

③本市が認める自主防災組織の定義について伺います。

④防災士に期待する役割について伺います。

⑤自主防災組織の結成・活動を推進するために何が必要と考えるかを伺います。

1. 認知症の人の精神障害者保健福祉手帳（障害者手帳）の取得方法と手帳取得後のメリット等について

このたびの質問は、精神障害者の中の認知症の人に限った精神障害者保健福祉手帳（障害者手帳）の取得等についてお尋ねいたします。

- 1) 現在、井原市では精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は全体で何名おられますか。そして全体の中で認知症の人は何名おられ、区分別にはそれぞれ何名おられますか。
- 2) 厚生労働省が定めている精神障害者保健福祉手帳交付の対象となるのはどういう疾患ですか。そして認知症の方はどの疾患に該当しますか。
- 3) 精神障害者保健福祉手帳の区分と判定基準はどういう内容になっていますか。
- 4) 精神障害者保健福祉手帳取得者のメリットで、保育・教育・就労面などの援助制度はどういう内容でしょうか。
- 5) 精神障害者保健福祉手帳取得者で各種サービス・割引などのメリットはどういう内容でしょうか。
- 6) 精神障害者保健福祉手帳取得者のメリットで、税の減免・控除や給付等はどういう内容でしょうか。
- 7) 精神障害者保健福祉手帳の交付によるデメリットはありますか。
- 8) 精神障害者保健福祉手帳の申請方法の詳細はどうなりますか。
- 9) 精神障害者保健福祉手帳制度の注意点は何かありますか。

- 1 0) 現在、本市で認定されている認知症の方で、申請すれば精神障害者保健福祉手帳が取得できるのではという人は何名くらいおられると推察できますか。
- 1 1) 認知症の人やその家族に対し、日常的にこの制度の周知をすべきだと考えますが、本市としてどういう取り組みをしていますか。
2. 幼稚園での預かり保育の未実施園（現 7 園）を、来年度で一気に実施することについて
- 幼稚園での預かり保育の未実施園の保護者から一日も早い実施を望む強い声を聞きます。未実施園 7 園の預かり保育を思い切って来年度一気に実施してはどうですか。
3. 固定資産税・都市計画税納税通知書等、各種納税通知書の送付時期を早めるよう改善することについて
- 固定資産税・都市計画税納税通知書の届くのが非常に遅いという苦情を聞きます。
- また、各種納税通知書についても、できるだけ早く納税者にお届けするよう改善していただきたいと思いますがどうですか。
4. 家庭ごみの分け方・出し方の看板をできるだけ大きくすることについて
- 今後、高齢者が増加することははっきりしています。そんな中で、市が作成して各地区に渡し、各地区がごみ出しステーション等に掲げている「家庭ごみの正しい分け方・出し方(井原地域・芳井地域)」という看板の文字が小さく高齢者には見づらいという声を聞きます。できるだけ大きくして、高齢者に見やすいものに改善してはどうですか。
5. 非核平和都市宣言のまちとして、「非核平和都市宣言のまち井原市」という懸垂幕を常時掲げることについて
- 井原市は、昭和 6 0 年 6 月 2 9 日に「井原市非核平和都市宣言」を行っています。
- 東日本大震災で原子炉が破壊し、放射能汚染の被害がいまだに問題になって

います。また、北朝鮮と米国の緊迫した状況が続いている中、非核や平和を求める声が一段と強まっています。

そんな状況下なので、市民に非核・平和の意識を高めてもらう意味や、市外から来られた方々には「非核平和都市宣言」をしている自治体だということを知ってもらう意味から、市内中心部で住民によく目につく「市役所」、「アクティブライフ井原」、「市民会館」などのうちどこか1カ所に「非核平和都市宣言のまち井原市」という懸垂幕を常時掲げてはどうですか。

6. 以前の私の質問に対するその後の対応について

1) 平成28年6月議会で、子どもの貧困の実態と支援策についての私の質問に市長は「実態は把握していかなければならないということは我々も思っているところでございまして、そうした状況をしっかりとできる範囲での実態調査を進める」とお答えになりました。その後の実態調査の結果はどうでしたか。

2) 平成29年3月議会で、私が、実態のない経ヶ丸グリーンパークへの案内看板4カ所の扱いについて質問したところ、市長は「地元と協議した上で、対応を決定していきたい」とお答えになりました。その後どうなりましたか。

6番 西村 慎次郎

1. 井原市消防団応援の店事業の導入状況について

全国的に消防団員の減少傾向が続く中、消防団員の確保が大きな課題になっていますが、井原市においては機能別消防団員制度の導入や女性消防団員の募集など団員確保に努めている状況です。

平成27年12月の井原市議会定例会の一般質問で、このような団員確保対策に加えて、新たな団員確保対策の一つとして、消防団員を地域全体で応援する制度の導入を提案したところ、平成29年度予算に「井原市消防団応援の店事業」の実施に向けた予算が計上されました。

そこで、本事業の導入状況についてお伺いします。

2. 井原市地域公共交通網形成計画の推進状況について

井原市の公共交通は、鉄道井原線、民間路線バス、井原あいあいバス、芳井・美星地区のスクールバスの一般混乗、井原市予約型乗合タクシー、一般タクシーがあります。

現在、平成28年3月に策定されました「井原市地域公共交通網形成計画」に基づき、各種施策を推進されています。

そこで、次の点についてお伺いします。

- ①過去3年間の民間路線バス、井原あいあいバス、井原市予約型乗合タクシーの利用状況について
- ②本計画の推進状況及び現状の課題について
- ③上記①、②を踏まえての今後の取り組みについて

10番 三宅文雄

1. 高齢者福祉の充実について

「福祉のしおり」に掲載されている「高齢者のための介護予防・生活支援」の中の総合相談事業、介護予防・生活支援サービス事業および権利擁護事業について、以下3点を伺います。

- ①総合相談事業として、相談の内容および対応状況について
- ②井原市では、本年4月から介護予防・日常生活支援総合事業が始まりましたが、介護予防・日常生活支援サービスの利用状況について
- ③成年後見制度の利用促進のため、市ではどのような取り組みを行っていますか。

2. 少年キラリ賞について

本市では、平成16年4月に子誉め条例を施行し、子どもたちの優れた活動や模範となる活動に対して表彰しています。子どもたちの健全育成に果たす役割は非常に大きいと考えます。そこで、この表彰規定について、以下3点を伺います。

①表彰についての周知は、現在どのような形で行われていますか。

②どのような活動に対して表彰していますか。

③誰が推薦してどのような審査を経て表彰に至りますか。

8番 柳井一徳

1. 災害対策について

①災害時救助補助金の見直しについて

昭和37年に制定された井原市災害救助条例での障害物の除去に係る補助金は、1世帯当たり最高額13万3,900円以内です。

平成28年度に創設された笠岡市の崩落土砂撤去費用補助金は、いろいろな条件を伴いますが、最高額100万円で制定されたそうです。

本市の災害救助補助金は約55年前の制定で、災害への先読みとしては大変素晴らしいことと評価できますが、約55年も経過しますので、現在の時代にマッチした金額に見直してはどうか伺います。

②豪雨災害で河川氾濫などによる土石、流木の撤去処理対策について

3年前の広島豪雨、本年6月の各地でのゲリラ豪雨、7月の九州豪雨による報道番組でおびただしい土石や流木が道路上に氾濫していたのを目にしましたが、テレビ報道によると朝倉市の流木の量が約20万トン、処理期間が約1年半を費やすとのことでした。本市は山林が市全体面積の約50%を占めており、24時間に300mm程度の豪雨によってはこのような被害も予想されます。そこで、予想される豪雨での土石、流木の撤去処理

対策の計画は練っておられるのか伺います。

③自主防災組織のあり方について

3年前の広島豪雨災害の検証結果では、行政と市民の間でかなりの意識の違いがあるといった意味合いの報道がありました。具体的には行政からの災害情報が頻繁にあり、1番大事な避難勧告メールが届いても市民の中には「またか」とたいして本気にしない方もおられ、また、高齢になるほど避難所への移動が困難、面倒といった検証報告もあるようです。こうしたことを踏まえ、広島市では自主防災組織に早めの避難や隣近所の高齢者を伴う避難行動を促すチラシを配布したそうです。

本市では、年1度の大掛かりな行政主催の避難訓練、防災訓練などが挙行され大変評価できます。現在、本市では各自主防災組織の避難訓練を強制していませんが、これだけの災害被害が各地に出ている昨今、訓練の必要性や実施確認など多少でも踏み込んで市民の意識改革を促すべきではないか、もっと強制力を持った市民の安全、安心につながる自主防災組織の運営指導が必要ではないかと考えます。

具体的には、防災士や防災リーダーを中心に大きな防災組織ではなく小グループで行動を起こしやすいような連絡網を作成し、誰が高齢者や障害者の方と一緒に避難するかなどを明確にして各戸に配布するべきと行政が指導する工夫が必要ではないでしょうか。

このことについて、どのように考えておられるか伺います。

5番 細羽敏彦

1. 新市将来構想・建設計画について

①屋外高齢者健康増進施設の整備について伺う。

②天神峡リバーパークの整備について伺う。

2. 健康寿命日本一を目指したまちづくりについて

①健康寿命の現状について伺う。

②健康寿命日本一の政策とスローガンについて伺う。

3. 地区集会所等施設整備事業補助金について

①補助金の制度の見直しについて伺う。

②災害時の対応について伺う。

4番 山下 憲 雄

1. 本市の企業誘致政策について

企業誘致活動を行うには、本市の将来における理想社会は「どのような地域を目指すのか」、「そのために、どのような手順で何を行うのか、やりたいことは何か」といった誘致のスタンスを明確にしておくことが欠かせないと思う。そこで、本市の企業誘致政策についての考えを伺う。

1) 本市が企業誘致を行うとき、優位と思われる内容はどのようなものか伺う。

①他市町と比べて本市が優位に立って企業や団体にメッセージできるコト、モノは何か。

②本市の産業振興を推進するにあたり、地場産業の特性に沿った方向性を誘致政策に取り入れているか。

2) 誘致活動の組織体制及び地域経済界、各種団体等との連携について伺う。

①現在、各種団体との連携体制はどのようになっているか。また、情報の共有化はシステムの的に行われているか。

②企業誘致の成否は本市盛衰のカギとなる重要課題であるが、現在の体制に問題はないか。あるとすれば今後どのように体制固めするのか。

- 3) 誘致したい企業の対象分野について伺う。
- ①本市が望む将来の理想社会の実現に向けて、新たな産業分野構築への構想を検討すべきであるが、どのように考えているか伺う。
- 4) 誘致活動計画について伺う。
- ①企業誘致活動は、いつまでに（期限）、どこまで（達成レベル）、といった目標に沿って行われているか。
- ②実施計画と行動にズレが生じる場合、関係者と調整しているか。
- 5) 誘致活動のプレゼンテーションツールについて伺う。
- ①誘致活動のプレゼンテーションツールには、こういったものがあるか。
また、誘致関係者、職員、協力企業は有効利用しているか。
- ②ツールには他市町との差別化がなされて、本市の特性が明示されているか。
- ③プレゼンテーションに沿ったロールプレイング等の訓練は行っているか。
- 6) 本市の企業誘致政策に関する今後の重点課題について伺う。

3番 柳原英子

1. 井原市における妊娠、出産に伴うサービスについて

井原市議会では「市民の声を聴く会」を開き、さまざまな声をお聴きしました。井原の良い点は、自然が豊か、安心安全、水がおいしい、野菜がおいしい、果物がいっぱい採れる、人が穏やかで優しい、犯罪が少ないまちと多くの方に評価されています。これはまさしく子育てにピッタリのまちだと思います。このようなまち井原市に若い方たちに住んでもらい、子どもを育てていただくために、次の2点についてお伺いします。

- ①妊娠して届けを出されてから出産までに行われる市のサービスについて。

②出産されてから一年間どのようなサービスが行われていますか。

2. 井原市で行われるイベントでの身体障がい者や高齢者に対する配慮について

夏祭り、花火大会等の際に、身体障がい者や高齢者等に対し、どのような配慮がなされているか伺います。

3. 子どもの姿勢について

「健康寿命日本一を目指したまちづくり」を推進する井原市では、様々な取り組みが行われています。健康を損ねる原因の一つに姿勢の悪さがありますが、最近子ども達の姿勢の悪さが目立つように思います。そこで、保育園や幼稚園、小学校ではどのような取り組みが行われているか伺います。

4. 公民館の整備計画について

①公民館の耐用年数と建て替えの際の条件について伺います。

②今まで公民館を建て替える際に、地元の意見をどのように取り入れられたのか伺います。

③今後の整備計画について伺います。

5. お知らせくんで観光地のイベントを周知することについて

観光で市の活性化を考えている本市においては、まず地元の市民で盛りあげなければならないと思います。最近、イベントの周知にお知らせくんを使いたいとの要望を市民の方からお聞きします。どのような条件であればお知らせくんで市民の皆様にイベントを周知できるのか伺います。

12番 藤原浩司

1. 井原市職員採用試験・職員確保及び職員の後継者づくりについて

①来年度採用目標の人数及び退職者は何人か伺う。

②採用試験の形態について伺う。

③全国的に人材不足の今日、井原市として職員確保に何か手立てを考えているのか伺う。

④事務職、技術職の後継者づくりに対しての進捗状況を伺う。

⑤井原市の求める人材、目指す職員像は何か伺う。